

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果について

今年度の検査である「国語」「数学」「理科」「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の調査結果の公表については、「序列化や過度な競争が生じないように配慮しつつ、各学校が自校の結果を±3ポイントの幅を基準とした5段階による言葉を用いたり、成果と課題を丁寧に捉え、具体的な改善策を示したりすることとする。」という札幌市の方針を受け、以下のように示しております。

■ 国語、数学、理科

それぞれ領域ごとの本校の平均正答率と全国平均との差を用いて比較しています。

+3.1ポイント以上	⇒ 「上回っている」
+3.0ポイントの範囲内で全国平均以上	⇒ 「ほぼ同程度であるが、やや上回る」
全国平均と同じ	⇒ 「ほぼ同程度」
-3.0ポイントの範囲内で全国平均以下	⇒ 「ほぼ同程度であるが、やや下回る」
-3.1ポイント以下	⇒ 「下回っている」

■ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

全国と比較して差異の大きい質問のうち、「肯定的な回答の多いもの」と、「肯定的な回答の少ないもの」、また特徴的なものと分類して選択しています。

また、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解いただけますようお願いいたします。

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
中学校 国語 【内容】 □「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ・全国平均に比べ、上回っている。 □「話すこと・聞くこと」 ・全国平均に比べ、上回っている。 □「書くこと」 ・全国平均に比べ、上回っている。 □「読むこと」 ・全国平均に比べ、上回っている。	●「事象や行為を表す語彙について理解することに課題がある。 ●資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。	○動詞や形容詞、形容動詞、名詞、副詞など様々な語句について取り上げ、語句の量を増すとともに、話や文章の中でどのように使用されているかについて考える活動の充実。 ○話の内容を踏まえ、要点や根拠が明確か、説明不足ではないか、中心となる事柄が強調されているかなど、自分の考えが聞き手に伝わっているかを確認し、資料や機器の使い方について検討する活動の充実。 ○自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認、接続する語句や指示する語句により、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書く活動の充実。 ○作品の構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って流れを捉え、その展開を把握することや、なぜそのような構成や展開になっているのか、どのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることができる活動の充実。

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

□「数と式」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「図形」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「関数」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「データの活用」

・全国平均に比べ、上回っている。

●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

●ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。

●一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることに課題がある。

●相対度数の意味の理解に課題がある。

○文字を用いた式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるようにする活動の充実。

○仮定や仮定から導かれる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、推論の過程を数学的に表現できるようにする活動の充実。

○一次関数についての表や式、グラフを関連付けて、 x 値の変化に伴う y 値の変化を調べたり、一次関数の変化の割合が一定であることを理解したり、 x の増加量に対する y の増加量を求めたりする活動の充実。

○大きさの異なる複数のデータの分布の傾向を考察する活動を設定し、相対度数の必要性和意味について理解できるようにする活動の充実。

令和7年度 全国学力・学習状況調査 琴似中学校の調査結果の概要について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
中学校理科 【内容】 □「エネルギー」を柱とする領域 ・全国平均に比べ、上回っている。 □「粒子」を柱とする領域 ・全国平均に比べ、上回っている。 □「生命」を柱とする領域 ・全国平均に比べ、上回っている。 □「地球」を柱とする領域 ・全国平均に比べ、上回っている。	●音に関する知識を基に、変える条件に着目した実験を計画することに課題がある。 ●実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題がある ●生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることに課題がある ●ボーリング調査の結果と関連付けて、地層の広がりを検討して表現することに課題がある。 ●予想が反映された振り返りを行うために、探究の過程の見通しについて分析して解釈することに課題がある。	○考察の妥当性を高めるために、科学的な探究の見通しをもつ学習活動の充実 ○化学変化を質的・実体的な視点で捉えることができるようにする学習活動の充実 ○生命を維持する呼吸の知識をいろいろな生物に活用できるようにする活動の充実。 ○地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、地層の広がりを検討して表現できるようにする活動の充実。

■ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

すべての質問について、肯定的な回答を合計し、全国平均と比較した結果について、特徴的なものをお知らせいたします。

○ 全国平均と比較し肯定的な回答の多いもの

質 問 項 目	本校の割合	全国平均
・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	87.4%	73.2%
・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはありますか	95.4%	91.6%
・読書は好きですか	71.9%	61.6%
・あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか	83.3%	76.6%
・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	87.8%	79.5%

○ 全国平均と比較し肯定的な回答の少ないもの

・学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)の問いに、時間差はあるが使っていると回答	60.7%	69.7%
・1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたかの問いに「ほぼ毎日」と回答	24.6%	53.2%
・地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)	23.9%	29.5%

○ その他の質問で全国平均と比較し、回答率が多かったものについて

・「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか」の問いに何らかの形で教わっていると回答	74.5%	59.8%
・「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」の問いに101冊以上と回答	39.3%	27.2%

昨年度より本校の新たな取組として琴中プレゼンテーションが始まりました。その効果もあり、ICT機器の操作や総合の取組に肯定的な回答が増加しています。しかしながら、昨年度に引き続き、日常の授業におけるICT機器の使用頻度は全国平均に比べて低い傾向にあります。